

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19I3210	異文化理解と子育て	3～4年	秋	講義	2	星 順子
授業概要 多様化が進む保育現場の現状と課題を把握し、保育者として多文化共生を実現するために必要な異文化理解の基礎や複言語環境で育つ子どもの育ちと保育、子育て支援の実際等を学ぶ。また他学部の留学生と交流し、異文化に触れる経験を踏まえて、多様な背景を持つ子どもの保育実践と子育て支援について検討する。						
到達目標(学習の成果) ・多様化が進む保育現場の現状と課題を理解し、保育者の役割と専門性を説明できる(DP4)。 ・異文化理解の基礎知識を得て、子どもや保護者とのコミュニケーションに活用できる(DP2)。 ・多文化共生保育の実現に向けて、多様性に応じた保育実践を具体的に提案できる(DP4)。						
授業計画						
回	学習内容	授業外における学習方法				
1	国際化・多様化の現状:日本や栃木の国際化・多様化の現状を学び、異文化理解の意義を理解する	事前	栃木県の国際化の状況を調査する(2時間)			
		事後	授業での学びや気づきをまとめる(2時間)			
2	「異文化理解」とは何か:異文化理解の概念を理解し、文化の特徴や保育や子育てにおける「あたりまえ」を考える	事前	配布資料を熟読し、内容を把握する(2時間)			
		事後	授業での学びや気づきをまとめる(2時間)			
3	子どもの多様性:子どもの多様性について考え、一人一人の子どもの力を引き出す保育実践を実現するための考え方を学ぶ	事前	配布資料を熟読し、内容を把握する(2時間)			
		事後	授業での学びや気づきをまとめる(2時間)			
4	保護者の多様性:※ゲスト講師 外国人保護者の声から、子育てに関する多様な視点や方法を学ぶ	事前	配布資料を熟読し、内容を把握する(2時間)			
		事後	授業での学びや気づきをまとめる(2時間)			
5	保育と多様性:外国人集住地域の保育施設における実践から具体的な援助について学ぶ	事前	配布資料を熟読し、内容を把握する(2時間)			
		事後	授業での学びや気づきをまとめる(2時間)			
6	やさしいにほんご ※ゲスト講師 外国人の子どもや保護者とコミュニケーションを図るための方法を学ぶ	事前	配布資料を熟読し、内容を把握する(2時間)			
		事後	授業での学びや気づきをまとめる(2時間)			
7	留学生との交流①「やさしいにほんご」を使って留学生と交流し、留学生の出身国の生活習慣や文化について学ぶ	事前	前回の授業を振り返り、交流会の準備を行う(2時間)			
		事後	交流会での学びや気づきをまとめる(2時間)			
8	留学生との交流②「やさしいにほんご」を使って留学生と交流し、留学生の出身国の保育・教育事情について学ぶ	事前	前回の授業を振り返り、交流会の準備を行う(2時間)			
		事後	交流会での学びや気づきをまとめる(2時間)			
9	中間のまとめ:これまでの学びを整理し、日本の保育施設の現状と課題をまとめ、解決策について検討する	事前	これまでの学びを振り返り、整理する			
		事後	学びを振り返り、さらにインターネット等で理解を深める(2時間)			
10	「多文化共生保育」とは:3 要領・指針を確認し、多文化共生保育について検討する	事前	3 要領・指針、テキストを熟読し、該当内容を把握する(2時間)			
		事後	授業での学びや気づきをまとめる(2時間)			
11	外国人の子どもの保育①受け入れから卒園まで、保育施設における配慮について検討する	事前	テキストを熟読し、内容を把握する(2時間)			
		事後	授業での学びや気づきをまとめる。(2時間)			
12	外国人の子どもの保育②複言語環境の子どもの言葉の育ちについて学び、保育者の援助について考察する	事前	テキストを熟読し、内容を把握する(2時間)			
		事後	授業での学びや気づきをまとめる。(2時間)			
13	外国人の子どもの保育③多様性を尊重する保育環境や教材の工夫について検討し、実際に作成する	事前	テキストを熟読し、内容を把握する(2時間)			
		事後	授業での学びや気づきをまとめる。(2時間)			
14	外国人の子どもの保育④外国人保護者への子育て支援について、日々の保育における工夫を検討する	事前	テキストを熟読し、内容を把握する(2時間)			
		事後	授業での学びや気づきをまとめる。(2時間)			
15	多文化共生保育の実現に向けて:「課題の解決に向けて」:これまでの学びを踏まえて自身の意見を発表する	事前	これまでの学びを振り返り、発表の準備をする。(2時間)			
		事後	これまでの学びを整理し、自身や他者の発表から得た学びをまとめる。(2時間)			

グループワーク、プレゼンテーション

- ・授業内容の理解(50%:授業内で提出する課題やワークシートの内容から理解度を以下の基準から評価する)
- ・試験(50%)により総合的に評価する。

観点	S	A	B	C
・多様化が進む保育現場の現状と課題を理解し、保育者の役割と専門性を説明できる(DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
・異文化理解の基礎知識を得て、子どもや保護者とのコミュニケーションに活用できる(DP2)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
・多文化共生保育の実現に向けて、多様性に応じた保育実践を具体的に提案できる(DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

授業内発表、グループ発表時に、直接フィードバックを行う

『保育者のための外国人保護者支援の本』咲間まり子、かもがわ出版、2020 年
その他、授業内で適宜紹介する。

この授業はグループでの意見交換やワークを重視しているため、積極的な参加を期待する。
わからないことや疑問に思ったことは、教員に直接質問すること。配慮が必要な場合は事前に相談すること。

実務経験のある教員による授業科目

- ・保育所保育士として、乳児・幼児クラス担任、外国籍の子どもの保育、インクルーシブ保育、保護者支援、実習生指導、災害支援等の実務に携わってきた。
- ・国際協力として海外の幼児教育現場に携わり、現地保育関係者と共に質向上プロジェクトに取り組んできた。

- ・国内外の保育経験を生かし、「異文化」「多文化」に関する具体的な現場のエピソードや経験談を基に授業を展開する。